

○12番（伊藤 守一君） 本定例会の一般質問のとりを務めさせていただきます伊藤でございます。よろしくお願い申し上げます。

昨今の世界異常気象の温暖化では、いろんな報道がございますけども、アルプスの氷河が溶けて日本人の方のご遺体が45年ぶりに発見されたとの報道もございました。また、日本におきまして、本日、台風18号から変わった低気圧で、栃木、茨城で大雨特別警報が発令されております。これも異常気象かと私は思っております。全世界で地球温暖化阻止に取り組む必要がぜひあると考えておるところでございます。

ところで今回の一般質問は2件ということで、町の将来人口について、2つ目、定住促進についてを質問させていただきます。

まず新聞報道でございますが、南部議員から質問がございましたけども、テレビ報道もございますので、再度質問させていただきます。

新聞報道で25年後の市町ごとの推計人口が県のほうから明らかにされました。それによりますと、東員町は25年後に2万人、その後、20年後に1万5,000人という内容について、その報道を見た時点で町長のお考えを伺いたいと思いますので、よろしくお願い申し上げます。

それと2つ目につきましては、人口増加は望めないところで、人口減少の少しでも歯止めが私は必要と考えております。今後将来的に構想があれば、その内容もお考えを伺いたいと思いますので、ひとつよろしくお願い申し上げます。

○議長（山本 陽一郎君） 水谷町長。

○町長（水谷 俊郎君） 町の将来人口についてのご質問にお答えします。

報道があったことにつきましては、一昨日ですか、いろいろお答えをさせていただいたところでございますけども、明治大学の小田切徳美教授によりますと、今、農山村に新しい風が吹き始めているということが言われております。人口が日本で最も少ない山陰地方、鳥取県では若者層の移住者が急増しているそうでございます。また鳥根県では30歳代の女性が増加しているということも明らかになっております。こうした移住者の特徴といたしましては、20～30歳代の方が多いようで、女性の割合が上昇しているということでございます。

毎日新聞と明治大学の合同調査では、全国での移住者は一昨年、2013年度、8,181人あり、その前からの4年間で3倍になっているそうです。この数字を多いと見るのか少ないと見るのかは別にして、この数字というのは県境を越えられた方の数字であって、県境を超えてほかの県へ移住した人の数字が8,181人ということで、県内移住者、県内の都市部から田舎へとか、そういう移住者を含めると数倍になるということだそうでございます。

よく田舎には仕事がないから若者は来ないと、こんなことが言われますけれども、その地域に魅力があれば、仕事というものは移住してから見つかるという若者が、この例ではほとんどだそうでございます。

こうした若者の傾向は、一つの仕事に固執するのではなくて、今までは1つ仕事を見つけて、それで生計を立てるということでしたけれども、最近の傾向は、若い人たちは複数の仕事を持って生計を立てていくということをしているそうでございます。例えば年間60万円の仕事を5つ持って合計300万円になりますよね。そして奥さんも一緒に働いて夫婦で共稼ぎをして生計を立てているという、いわゆる昔の「ナリワイ」というものをやってみえる、そんな傾向に若い人が移行しているそうでございます。

島根県の中山間地域研究センターの藤山浩さんは、地域に人口の1%の移住者があれば地域は維持されると言っておえみでございます。この理論に従いますと、人口は若干減ってきますけども、何もしないよりも人口減少は少し補えるということでございます。10年ぐらい1%移住があれば、10年後ぐらいから高齢化率は下がっていくということになる、こう言われております。

本町への40歳未満の移住者数は、ここ数年その1%を超えておりまして、極端な人口減少に歯止めをかけていると考えております。それとともに、これから高齢化の上昇を抑えてくれるのではないかなということでも期待をさせていただいております。

行政といたしましては、こうした傾向を続けていけるように施策を展開していきたいと思っております。それと同時に町の魅力を高める、それと若者を呼び込む施策をより一層進めるということをしていきたいというふうに思っております。

さて、県が明らかにしました市町ごとの推計人口は、国立社会保障・人口問題研究所のデータに基づいたものでございます。その中で、今、議員がおっしゃいましたように本町の人口は2040年には2万人、現在の8割、それから2060年には1万5,000人、現在の6割まで減少する推計をされておりまして、東員町の人口ビジョンもこの数値をベースに策定を進めております。これは何もしなかった場合です。多少の誤差はあるものの、本当に何もしなかったらこのようになっていくということになります。

この人口減少に歯止めをかけるためには、本町が今取り組んでいる子育て環境の整備をさらに充実させ、結婚や出産をしても女性が働ける環境を整えることや、また、空き家を今、調査をしておりますけれども、空き家を活用した住宅供給などを考えておりまして、若い人が安心して暮らし、豊かさを実感できる生活環境が必要だと考えております。

それとともに地域を磨き、東員町に住みたいという人たちを増やすためのまちづくりを、町民の皆さまと一緒に進めてまいりますので、町民の皆さまには、主体的にそれぞれのまちづくりに参加をいただきたいというふうに思っております。

このため現在策定を進めております「東員町総合戦略」では、役場内での本部会議や企業、教育関係、金融機関など、さまざまな立場の方々に構成する懇談会で意見を伺いながら、戦略として取り組む施策の洗い出しを現在行っております。

総合戦略は若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる、安定した雇用を創出する、交流・にぎわいを生み出す、安心して住み続けられ、快適な生活のできるまちをつくる、こうした主な4つの大きな目標に向かって施策を展開する方向で考えておりました。今後、町民の皆さまが東員町のまちづくりに積極的に参加をしていただける場づくりを考えておりますので、議員の皆さまにもご協力のほど、よろしくお願いを申し上げます。

以上でございます。

○議長（山本 陽一郎君） 伊藤議員。

○12番（伊藤 守一君） ご答弁どうもありがとうございました。

これからの施策について、総合戦略とか、この間資料をいただきました人口ビジョン（仮称）の中身でございますけども、いろんな検討がある中で、私はどっかかと言うと東員町は単独を進めたという私の持論ですけど、平成14年当時の議員は今3名みえますけども、私は単独を進めたということで、こういう記事を見ると敏感になっておるのですわ。人口減少は仕方ないやろうという理論で、それを食い止めるということで、策がすぐパツと出るかということで、ビジョンの中身を若干読んだんですけど、方向性はいろんな方向性が書いてありますけども、早期に対策を行うとか、子育てしやすい環境をつくるとか、住宅支援の実施なども必要ですとか、ちょっと見えにくい内容というのは、それだけ人口減少の歯止めというのは時間がかかるのかなと私考えておりますけど、その辺、町長どうですかね。

○議長（山本 陽一郎君） 水谷町長。

○町長（水谷 俊郎君） 今、現実問題としまして、一昨日もお話をさせていただいたんですが、子育て支援の充実だとか、それと4年前に震災がありました。あれから海岸線よりちょっと入っている、そして山もないということで、災害的にも安全かなと、かなですけどね、というようなご評価をいただいております。今、東員町には若い夫婦の方が定住をしていただくという傾向があります。

そういうことで、人口が減少するのは私はこれはもう間違いなく日本中減少するわけですから、仕方がないというふうに思っておりますが、それに少しでも歯止めをかける、そういう施策を展開しているのかな。それをもう一步、町民の皆さんと一緒に地域をフラッシュアップしていくというようなことをやりながら、東員町の魅力を発信しながら、東員町に来ていただく方のことを、きちっと考えていきたいというふうに思っています。

ただ、今日の午前中にもありましたけど、ちょっと偏っているんですね。入ってきていただくところが偏ってまして、教育施設だとか保育施設だとか、少し足りな

くなってきているかもわからないというところがありまして、余裕があるところがあるんですから、そういうのも含めて、東員町全体のバランスを考えながら、来ていただけるような施策をとっていきたいというふうに思っております。

○議長（山本 陽一郎君） 伊藤議員。

○12番（伊藤 守一君） 子育て支援、教育もろもろ考えてみると、東員町につきましては他の市町村より負けないと私は思っていますので、先ほどもちょっとあったようなPRの仕方とかが少ないんじゃないかということもありますけども、私はとりあえず後からも出てきますけども、神田地区の住宅の小開発、それとまたネオポリスの空き地バンクの問題、それを火曜日の町長の回答で、少しずつの小さな開発を進めたいと、それもピッタリと思います。

私は子どもさんたちにつきましても、中央公園、万助溜、三段池、あの辺はすばらしい公園を持っていますので、鷺田議員が言うように、あの辺ホテルもどうかと、土木へ行って話をした覚えがあります。

そういうのも含めてPRさせていただいて、自分ではPRしているつもりなんですけど、よその大会に行ったときに。なかなかそれが実らんというのが実情で、今後ともそういう施策を上手にPRさせていただいて、今も北勢線の何とかと高田純二さんも来てみえましたけど、町長利用するのが上手やから、ああいうのも利用させていただいて、どんどん若者を呼び込んでいただきたいと思いますので、私も今後とも協力させていただきますので、ひとつよろしくお願い申し上げます。

それでは2点目、定住促進についてでございますけども、この内容も昨年9月、また同僚議員、火曜日に南部議員も質問した内容でございますけども、質問させていただきます。

1つ目は三和地域の住宅開発の進捗状況ですね、それから2つ目につきましては笹尾第一保育園跡地の活用状況、3目につきましては東員駅前のコンパクトシティ構想の進捗状況を伺いますので、よろしくお願い申し上げます。

○議長（山本 陽一郎君） 水谷町長。

○町長（水谷 俊郎君） 定住促進につきまして、お答えをさせていただきたいと思います。

1点目の三和地域の住宅開発の進捗についてでございますが、この地域はイオンモールが進出して、来年3月には東海環状自動車道東員インターチェンジの完成を控えておりまして、今後利便性が高まり、活性化が期待できる重要な地域と考えております。

この地域の土地利用についてでございますが、一昨日もご答弁させていただきましたけども、インター周辺は市街化調整区域になっておりまして、そのほとんどが農業振興地域となっておりますので、農地法や都市計画法の規制があるため、現在県当局と詰めを行っているところでございます。

また、流通のかなめとなるインターチェンジの出入口周辺おおむね300メートルの範囲につきましては流通業の施設、あるいは休憩所、給油所、その他、これらに類する施設の開発許可と農振除外が現行法で認められております。これを利用できればなということなのですが、なかなか土地が少ないということもあります。

さらに大規模な流通業務施設につきましてはインターチェンジから1キロメートル以内の範囲、特定流通業務施設につきましてはインターチェンジから5キロメートル以内で、一定の要件や条件はございますが、立地ができるということになっております。

住宅開発を含めた当該地域の土地の有効利用につきましては、庁内の担当部局と関係機関との協議を現在も進めておりました、私自身も、直近では6月26日に三重県知事と一対一対談をさせていただいた時に訴えておりますし、また7月23日、東海農政局長と対話をさせていただき、その場でも規制緩和を強く訴えておりました、今後も粘り強く協議を重ねてまいりたいというふうに考えております。

2点目の旧笹尾第一保育園跡地につきましては、これからの利用需要や有効な活用方法を検討した結果、民間へ売却する財産と位置づけ、条件つきで売却する方向で進めております。

売却につきましては、環境に配慮した、また、若い人をターゲットにした住宅の建設、販売をしていただくように求め、この地域に若い人が定住してもらうことを期待しながら売却していきたいというふうに思っております。

現在の取り組み状況でございますが、売却する土地の中に、ある自治会でご利用されているストックヤードがございます、その施設を移設したいということで、その自治会と協議を進めておりましたけれども、この間、その協議が整いましたので、移設が完了し次第、売却したいと考えているところでございます。

3点目の東員駅前コンパクトシティー構想でございますが、この構想では、東員駅を中心に歩いて暮らせる生活空間をイメージしておりました、特に高齢者が住みやすく、利便性が高いエリアをと思っております。これは笹尾・城山地区の住宅団地再生ということも考え合わせながら、この地のまちづくりを進めていきたいというふうに考えております。

しかし、東員駅周辺地域も東員インター周辺地域と同様に市街化調整区域でありまして、また、そのほとんどは農振農用地域ということで、農地法・都市計画法の規制があるということはお承知のとおりだと思んですけど、こういうことで住宅開発を伴う目的の土地利用は、非常に困難な地域ということになっております。

先ほども申し上げましたが、知事、あるいは東海農政局長との会談の場で、東員駅周辺地域も、先ほどの東員インター周辺地域と合わせて、規制緩和を強く訴えをしてきたところでございます。

いずれにいたしましても両方とも重要な地域と位置づけておりますし、東員町の将来のかかった地域とっておりますので、今後も引き続き、粘り強く関係機関と協議を続け、将来を見据えて東員町の形を変えていくという努力を重ねてまいりたいというふうに考えておりますので、よろしくお願いを申し上げたいと思います。

○議長（山本 陽一郎君） 伊藤議員。

○12番（伊藤 守一君） 三和地域の住宅開発と駅前開発につきましては、ちょっと印象的に3年や4年の話やないという感じを受けたんですけど、その理解でよろしいですか。

○議長（山本 陽一郎君） 町長。

○町長（水谷 俊郎君） できるだけ早くやりたいと思っておりますが、基本的にはそのとおりです。

ただ、三和小学校周辺の土地、調整区域の中でも白地の部分につきましては、これも一昨日お答えさせていただきましたけども、土地計画という手法を活用して、小さいものかもわかりませんが、住宅開発というものを考えておまして、県との詰めに入ってますので、何とかこれはまず先駆的に、先にやっていきたいというふうに思ってます。あとのインター300メートル以内というのは、土地が難しいこともあるし、いろいろな規制もありますので、その辺は少し後になるかもわかりませんが、できるだけ早く、できることから手をつけていきたいというふうに思っております。

○議長（山本 陽一郎君） 伊藤議員。

○12番（伊藤 守一君） 白地、北大社の開発したような土地やと私は思うんですけど、東員町内にはそういう白地は多いのですかね、ちょっと伺います。

○議長（山本 陽一郎君） 町長。

○町長（水谷 俊郎君） 北大社を住宅開発した、あれは都市計画法34条の11項という、要は簡単に言えばミニ開発ができるというのがあります。住居の市街化区域から1キロ以内の中では住宅のミニ開発ができるよというのがありまして、それを活用してます。ただ、三和地区については住居の市街化区域がないものですから、1キロ以内にはないので、三和地区は基本的にはできないんです。できないんですが、先ほど言いました地区計画、いろいろ条件あるんですが、そういうものを活用しながらやっていきたいというふうに思ってます。

○議長（山本 陽一郎君） 伊藤議員。

○12番（伊藤 守一君） 土地については余り詳しくないので、また伺いに行きます。

それと笹尾の土地なんですけど、具体的に平成28年度から販売に入ると理解してよろしいのですかね。

○議長（山本 陽一郎君） 町長。

○町長（水谷 俊郎君） この議会でストックヤードの移設の設計をお願いしていると思います。設計がそんなに難しいものではないので、設計が終わりましたら工事発注をして、できましたらできるだけ早いこと移設をさせて、移設の工事もそんなにかからないと思いますから、できるだけ早いことさせて、来年度、平成28年度中には売却の手続きに入れるのではないかなというふうには思っております。

○議長（山本 陽一郎君） 伊藤守一議員。

○12番（伊藤 守一君） また、見えるように説明をよろしく申し上げます、具体的に入ったら。

それとまた、ちょっと元へ戻りますけど、火曜日の町長の答弁で、人口が余り減少しているとは考えてないという答弁がございましたね。確かにグラフで見ると、平成4年ぐらいからずっと、ちょっと減っているパターンで来ているんですけど、この人口は表現が違うので、行政区域の表を見ると確かな人口が出てきますけども、平成14年から平成15年3月について、151名減っているんですよ。その前は、平成13年から平成14年は22名なんです。やっぱりこの辺は、これが続くのと違うかなと私考えてますけど、その辺、町長どうですかね。

○議長（山本 陽一郎君） 町長。

○町長（水谷 俊郎君） これはいろいろ相手があることなんで、なかなかわからないというのが本音なんですけど、減るのは間違いないというのは先ほど申し上げましたけど、できるだけその減り方をなだらかにさせていきたいというふうなことで今やっておりまして、先ほども言いましたように、藤山さんの理論でいくと、1%若い人が流入すれば若返って、若干は減るけども高齢化率も減っていくという、その地域は維持できるよということがあるんですが、東員町は平成25年度も平成26年度も、1%ではなくて約2.5%ぐらいの人口流入があります。その前もずっと2%を超えております。この施策を続けていくことによって、若干は減っていくけども、若返って少しなだらかに減っていくのではないかなというふうなことを考えてます。

○議長（山本 陽一郎君） 伊藤議員。

○12番（伊藤 守一君） 最後になりますけども、新聞報道なんかを見ると、25年後でハッと思うんですけど、25年後というたら私らもう多分いないので、東員町は単独方針でしっかりした東員町をやっていきたいと思っておりますので、私もこういう新聞を見ると気になるんです。敏感になってますので、これから総合ビジョンの計画もしっかりやっていただいて、総合計画ですか、それもしっかりやっていただいて、多少の歯止めも考えていただいて、今後の人口減少の歯止めを考えていただきたいと思っておりますので、ひとつよろしくお願い申し上げます。

何かありましたら。

○議長（山本 陽一郎君） 水谷町長。

○町長（水谷 俊郎君） 今やっていることは、方向としては間違いないのかなというふうなことを思ってます。

ただ、それに甘んじることなく、それこそいろんなこと、もっともっと充実させていくということもそうですし、午前中にもご指摘いただいたように、私が外へ出て東員町のよさをPRして、東員町へ来ていただく方を増やしていくということも非常に大事なことはないかなというふうなことを思ってますので、いろんな手を尽くして東員町というものをPRし、東員町に入ってきていただく若い人を呼び込めるような、そんな施策を講じていきたい、努力をしていきたいというふうに思っておりますので、ぜひとも皆さんにもご理解賜りますとともに、ご協力よろしくお願いを申し上げたいと思います。